障がい児者の家族の皆さんへ

ちょこっと・ねっと

ちょこっとした「受援力」が、あなたと家族を守ります。

＊受援力とは、支援を受ける力の事です。

制作：「ちょこっと・ねっと」推進委員

ちょこっと・ねっと

東日本大震災で、
障がいのある私たちは
「ちょこっとした手助け」が必要でした。

制作：「ちょこっと・ねっと」推進委員会

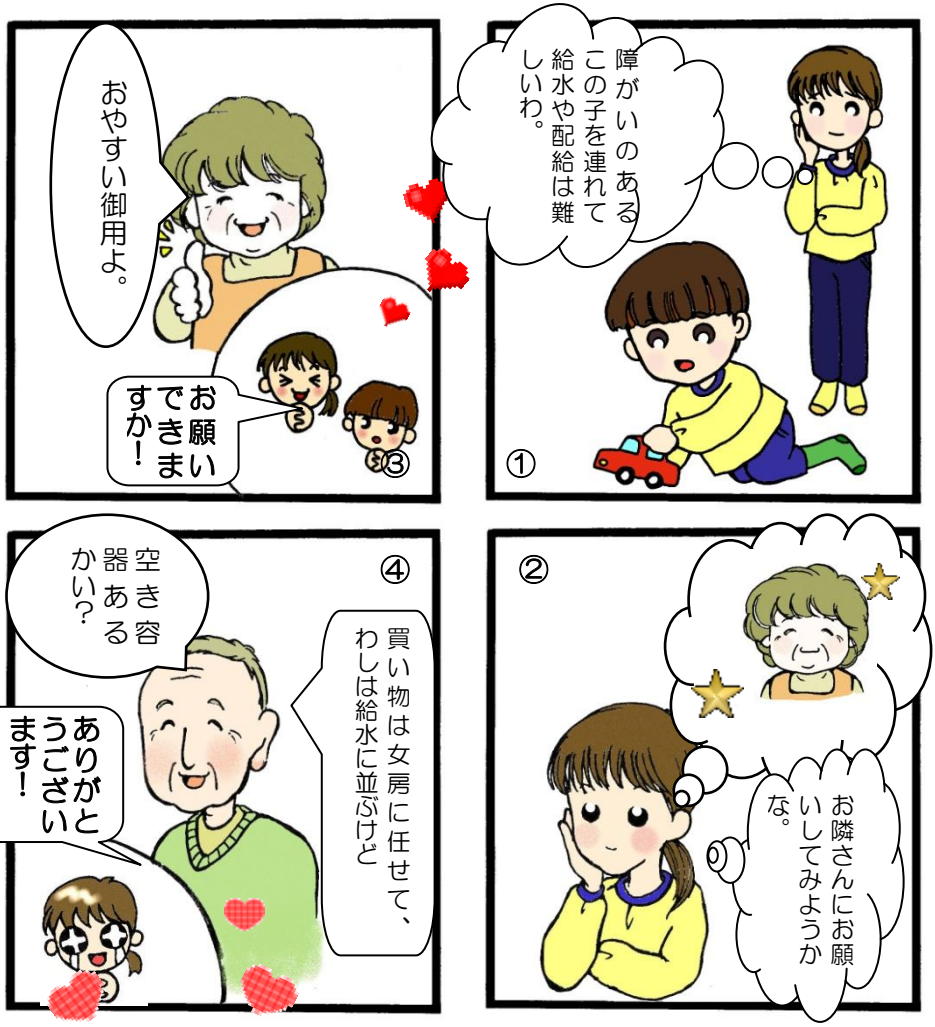
あなたの周りに、「ちょこっと」手助けが必要な方がいます。

障がい児者だけでなく、
高齢者や乳幼児世帯も避難所へ避難する事に不安を抱えて
います。

2011 年３月 11 日東日本大震災がありました。障がい児世帯の 57.2%（仙台市内の放課後ケアを利用している障害児 237 世帯回答）が、自宅や車中で避難生活を送りました。その多くが、障がい児者を連れて避難することに大きな不安を感じながら生活をしています。

震災後、不安な避難生活を送っていた障がい児者世帯を一番支えたのは、地域の人からの励ましや行動でした。

東日本大震災後は、
障がい児者の家族は大きな不安を抱えて生活していました。

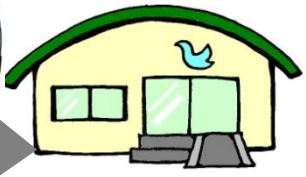


「携帯もつながらない、ガソリンもない」
そんな時に近くの人に声をかけてもらうだけで、
本当に心強く思いました。

障がい児者の生活マップ（例）

普段は遠いところで過ごすことが多く、
地域とのつながりが持ちにくい生活をしています。
だからいざという時には、
地域の皆さんのちょっとした手助けが力になります。

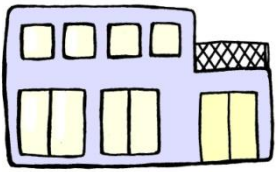
スクールバスで 50 分



支援学校（小～高）

スクールバスで 40 分

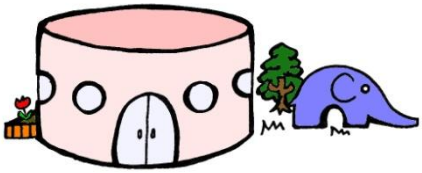
車で 20 分



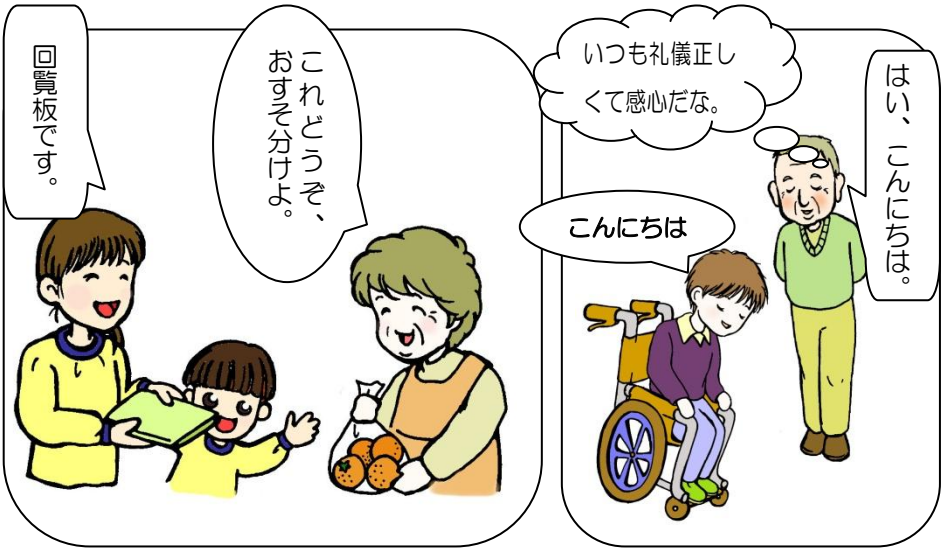
福祉サービス事業所

送迎車で 30 分

放課後ケア



親子通園施設



今このリーフレットを手に取っているあなたが、
その手助けになれるのです。

①「あれっ？」っと思ったら、手助けが必要かどうか「ちょこっと見守る」ことができそうですか？

②「あれ？」っと思ったら、勇気をもって、声をかけることができそうか？

③「ちょこっとした手助け」が必要な人を見つけたら、手助けができそうですか？

④自分ができない場合でも、できる人を探す手助けができそうですか？

あなたの「ちょこっとした手助け」を貸して下さい。

アフタースクールぱるけは、宮城県仙台市で平成 14 年から障がい児者の余暇支援とその家族を支援する活動をしています。東日本大震災後、災害時に 「ちょこっと（仙台弁でちょっとの意味）した手助け」をしてくれる人が増えていくことを願い、2012 年 1 月に 障がい児者の保護者 11 名を中心に「ちょこっとねっと」推進委員会が発足し、このリーフレットを作成しました。

協力：NPO法人アフタースクールぱるけ（http://homepage2.nifty.com/paruke/）

＊このリーフレットは公益財団法人 助成財団センター様の助成を受けて作成しました。

＊イラストby むらかたみゆき